

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

充実した5年間！

通信教育部社会福祉学科卒業生 木村しのぶ

5年間の学生生活

2013年から今年3月まで5年間、東北福祉大学で学生生活を送りました。私が入学した理由として、もう一度大学で勉強したい！という思いがありました。2011年の東日本大震災の影響から、経済的な理由により専門学校を退学していましたので、学費面の負担が少ない通信教育の学校から東北福祉大学を選択しました。しかし入学当初は、福祉について強い思いがあった訳ではなく、とにかく勉強がしたいだけで、他の学生さんに比べ、知識を含め熱意にも欠けている学生でした。

レポート学習について

入学後の1、2年目は、スクーリングは出席していましたが、レポートについては殆ど提出していない状況が続きました。福祉について知識が乏しく、講義についていだけで精一杯でした。学習期間中は、教科書の用語や制度が理解できないことが多かったです。まさに、「障害者総合支援法？」「ソーシャルインクルージョン？」と、序盤から読み進められない状況でした。そのため、図書館でより身近に書かれている関連書籍を借り、基本知識を養う作業から取りかかりました。一つのレポートに3、4冊書籍を読むことが多かったと思います。

そして3年目を迎え、知識が増え、スクーリングの理解が深まり始めた頃、「演習A」を受講しました。その際に、素晴らしい学友に出会えたことが、学生生活の分岐点になりました。「演習A」の講義の最後に学友が

言った、「次は演習Bで!」という言葉は、当時の私にとって学習を進める支えになりました。実習申込みまでギリギリな状況でしたが、何とか無事に実習に進むことができました。

実習から、社会福祉士の専門性って？

実習は、就労継続支援B型の事業所で行いました。毎日、貴重な時間を提供していただいたにもかかわらず、1週目を終えた頃、実習の目的を見失いかけている自分に気がきました。何故なら、毎日、同じ場所で行われる作業や状況から、社会福祉士の専門性、ソーシャルワークを見つけることが困難であり、理解が進んでいなかったからです。(私の視野が偏っていたため気づきに至らなかったことが要因です。)

悶々とした悩みを抱え、打ち明けることもできず、帰校指導を迎えました。帰校指導で、上記の悩みを打ち明けました。すると、担当教員の方から「利用者さんが暮らしているのは、どこでしょうか？地域です」と、どこに視野を向け理解に努めるべきかヒントをいただきました。以降、事業所の支援と「地域」を関連付け、「実習先で外部に販売に行く意味はなんだろうか?」「事業所は、地域においてどのような存在だろうか?」「利用者が行う業務は、地域で暮らすうえでどのような意味があるだろうか?」といった具合に考察し、実習を行っていきました。また、些細な疑問は、実習指導者や日々支援されている職員の方に尋ね、解消していきました。

実習中は、社会福祉士について深く学べた機会でもあり、自分の価値観を発見し、自分を見直す時間でもありました。ときに、自分の価値は視野の偏りを生むことがあります。実習では、専門性の理解だけではなく、客観的に視る力を向上させていくことも重要であると考えます。何故なら、支援の主体はワーカーではなく、クライアントだからです。ぜひ、実習を一つの機会とし、広い視野を持つ社会福祉士をめざしていただけたらと思

います。

国家試験まで約8カ月

国家試験の学習は、レポート学習が概ね終了した6月頃から始めました。何冊か参考書・模擬問題を購入しましたが、限られた時間で全てを有効に使用することはできず、国家試験直前まで使用したものは「社会福祉士合格教科書（福祉教育カレッジ）」「過去問解説集（中央法規）」「一問一答&要点まとめ（ユーキャン）」となりました。勉強法としては、「過去問を解く⇒答案を理解する⇒参考書で知識を深める」の繰り返しでした。過去問を解く際は、正解は「問1、②」や「問1、× 問2、○…」等と記入はせず、何故正解なのか、間違いなのかを、5つの選択肢すべて自分の言葉で書きなおしました。問題を読み、選択肢を見た時、すぐに修正できないものは理解が不十分であると考え、解答及び参考書を読みなおし、関連知識を含めて理解に努めました。また、覚えられないものは何度も参考書の図や文を書きました。「一問一答&要点まとめ（ユーキャン）」は、移動時間、入浴時間といったすき間時間に使用しました。

試験1カ月前は、焦りから勉強が捗らず、まったく勉強ができない日が何日もありました。その時は、気晴らしに出かけ、気持ちを保つことに努めました。試験当日は、正答を見つけるだけでなく、不正解を多く消す力も必要であると感じました。そのためには、知識を積み重ね、養っていくことは大切で、そうすることで当日焦らずに正答を導き出せると思いません。

最後に

入学からレポートの提出、実習まで、常にギリギリの状況でしたので、

決して褒められた学生ではありませんでした。とくに、実習申込みが迫っていた時期は、自業自得ながら1カ月で15本のレポートを完成させ、心身が疲労しきっていました。ですが、それも良い思い出で、5年間とても楽しい学生生活でした。

今後、実習、国家試験を控えている学生の皆さんは、体力だけではなく、気力も必要になると思います。どんな時も、適度に息抜きをし、心身を大切に過ごされてください。ありがとうございました！

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●公的扶助論 阿部 裕二

- ・生活保護受給に対し、制度やその背景、歴史等について学ぶことができた。自分がとても勉強不足だなと思いこれから学びを深めていきたいと思った。
- ・公的扶助は憲法で保障された重要な制度であるが、現実の社会生活で困窮している人たちのために本当に役立つように、もっと利用しやすくする部分も多々あるのではないかと思います。
- ・ひとり家庭の母親の相談を受ける予定になっています。どのような支援をすべきかととても迷っていたところなのですが、いろいろな方法を私の中に収集できた気がしています。すぐに実践に役立つ授業はとても参考になりました。

●福祉法学 菅原 好秀

- ・法学は言葉も難しく行政や制度などに関連する事柄が多いのでとても苦手意識がありましたが、先生の良い声と親しみやすい話し方で理解が進みました。実際の事件や判例も交えての授業で、法学を身近に感じることができ、今後の自宅学習も頑張れそうな気がしました。
- ・かなり難しい内容の講義を、楽しく学ぶことができて感動しました。成年後見制度など、重要な知識をわかりやすく説明してもらえたのでよかったです。先生の声が素敵でした。
- ・今まで受けた講義はたくさんの資料を見ながら＋ノートを取りながら、だったのですが、今回はすべて板書だったためとてもわかりやすかったです。また、先生が実際のニュースを例題にしてくださり、覚えやすく理解しやすかったです。楽しんで講義を受けられました。

●福祉経営論(福祉施設管理論) 高橋 誠一

- ・経営論をとても難しく考えていましたが組織のことなど勉強になりました。やはりスクーリングに来て良かったと思いました。
- ・福祉分野に限らず、多分野にわたって経営の講義をされていたので、とてもおもしろかったです。
- ・利用者と職員、経営者の立場それぞれから、さまざまな考え方や組織構造から成り立っているのが複雑で、何を優先させればよいのか考えさせられた。

●介護概論 城戸 裕子

- ・多くの事例を聞くことができわかりやすかったです。アロマの香りが学習意欲を高めてくれました。参考にしたいと思います。
- ・先生とのやり取りがある講義は、オンデマンドやVTRの授業と違った感じで大変よかったです。